

提 案 概 要

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 数学部会

1 提案テーマ 『学習意欲を高める学習指導の在り方』

2 単元(題材) 比例・反比例

3 学年 第1学年

4 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 数学的な活動を通して、数学への関心・意欲・態度や数学的な見方や考え方を育てる指導と評価の工夫・改善

5 学習指導要領との関連

第2章 第3節 数学 第2 各学年の目標及び内容 [第1学年] 2内容 C 関数

(1) イ 比例、反比例の意味を理解すること。

6 実践に向けての課題意識

本校の生徒たちは、平成25年度の全国学力・学習状況調査の生徒アンケートなどから、「新しいことや難しいことに挑戦したがない、なんとなく自信がない」という自己肯定感の低さが課題として見受けられる。また、日常の授業においても、発問に対する反応が薄いこと、発言が少ないことなど、学習意欲が低いという課題がある。

生徒たちの発言を増やし、学習意欲を向上させることで、自己肯定感を高め、その結果、さらに生徒たちの発言が増えていくという、良い循環をつくることを目指して、3つの実践を行った。

7 実践の概要

① 「オープンな問い」から授業をつくる

例えば、一次関数のグラフが与えられているとする。「グラフを調べるとこのグラフの運行の様子について、いろいろなことがわかります。どんなことがわかるか書きなさい。(いくつ書いてもかまいません)」というような問いは、いくつも正解があるオープンな問いである。

オープンな問いにより、いろいろな答えがでてくるので、生徒の発言も活発になり、生徒同士の意見交換も活発になると考えた。

② 斜線を使う「見え消し」をノートに取り入れる

生徒たちの思考のプロセスが結果より大事であるとする。正解にたどり着けなかったときには斜線で消して、もとの思考を残したまま次のプロセスを書くようにする。間違っているでもそれを活かすことになり、学習意欲を高められると考える。

③ 生徒同士で教え合う

生徒同士で教え合うことで、教える側も勉強になり、それぞれの学習が深まると考える。

8 成果と課題

成果は、平成25・26年度の全国学力・学習状況調査及び平成26・27年度の県学習状況調査アンケートの比較により、学習意欲について改善がみられる。授業中の生徒の発言が増えてきたと感じる。間違いでも発言することで、生徒たちのなかに議論が生まれ、学習が深まったと考えられる。課題としては、発言の質をより高める工夫をどのようにしていくのが挙げられる。

9 予想される協議の柱

- ・授業で、子どもたちの意見が活発にでたオープンな問いと、その発問の仕方の工夫
- ・生徒の学習意欲を高めるために、それぞれの学校で取り組んでいる事例